

地方創生交付金事業の検証シート

【地方創生推進交付金】

- P1 ヘルSEAアイランドづくり事業
- P2 シーリゾートトライアングル構想・推進事業
- P3 湯島で生きる“島活”応援事業
- P4 上天草市「観食住」サイクル事業
- P5 天草四郎と潜伏キリシタン文化を活用した新たな観光素材づくり事業

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる

事業名：上天草市「ヘルSEAアイランド」づくり事業

(平成28年度～平成30年度)

(平成30年度事業費：45,044千円／交付金22,522千円)

事業の概要

◆本市の観光資源である“海”と一定の集客実績のある“健康”を核とし、インパクトのある情報発信を中心とした前島地区における観光の拠点づくりを行う。

◆ヘルシーな上天草観光のイメージを定着・発信するとともに、誘客力向上、地域産業全体の強化及び人材育成を図る。

＜主要事業＞

前島観光拠点化事業（イメージアップ情報発信・間伐等森林整備）、複合型スポーツ&ヘルスツーリズム（ライフキネティック事業・ヘルシーメニュー開発・人間ドックモニターツアー・遊休養殖場）、トータルブランディング事業

健康福祉部 健康づくり推進課
経済振興部 観光おもてなし課・農林水産課
建設部 都市整備課

重要業績評価指標（KPI）

◆観光入込客数 事業開始前 1,423,480人
【H30】目標 1,517,000人 → 実績1,867,433人 (123%)
最終目標 1,517,000人 (累計93,520人増加)

◆前島エリアの観光入込客数 事業開始前 263,179人
【H30】目標 287,000人 → 実績716,124人 (250%)
最終目標 287,000人 (累計 23,821人増加)

◆ヘルスプロモーションイベント参加者数
【H30】目標 320人 → 実績 603人 (188%)
最終目標 累計525人

担当課
評価

B

前島等観光拠点化事業については、マリンランドのイメージを定着させるため、クリアカヤックやサップヨガの実証実験を行うとともに、夜間の飲食イベントやプロジェクションマッピングを実施しながら情報発信を行った。また、間伐等森林整備としては、前島を拠点にして市内の各地域へ観光客を誘導することを目的に維和公園、カントリーパーク花海好、龍ヶ岳山頂において樹木の伐採等の景観整備を行った。さらにトータルブランディング事業として、平成30年7月に策定した上天草市観光ブランディング計画に掲げるブランドコンセプト「ナナメ上ノ上天草」をもとに、旅行商品の造成やプロモーション活動を実施したことで、観光入込客数及び前島エリアの観光入込客が目標を大きく上回った。複合型スポーツ&ヘルスツーリズム事業のうち、ヘルスツーリズムについては、本市の環境資源を活用した人間ドックモニター事業を実施するとともに、温泉大学、ライフキネティック講座をONSENガストロノミーウォーキングや菜の花ウォーキング等の既存イベントに合わせて実施したことで、イベント参加者数は目標を大きく上回った。なお、昨年度に引き続きあさり養殖の産業化に向けて実証を行ったところだが、夏季の干潮時に養殖場内が高温になり、多くのアサリが死滅してしまい、目標としていた生存率を大きく下回る結果となった。

改善（令和元年度以降における取組みなど）

前島等観光拠点化事業については、当該事業で得られたノウハウや事業者間との連携体制を新しい観光拠点施設を中心とした民間事業者を引き継ぎ、情報発信等を行いながら、さらなる観光入込客の増加を図る。また、昨年度策定した観光ブランディング計画に掲げるブランドコンセプト「ナナメ上ノ上天草」の浸透を目的に外への発信に加え、市民や市内の民間団体への周知徹底を図り、選ばれる観光地として更なる観光資源の磨き上げを進めていく。複合型スポーツ&ヘルスツーリズムについては、ヘルSEAメニューの取扱店舗の拡大により、市民及び観光客への健康を意識したメニュー提供ができるよう展開し、熊本県が取り組む「健康づくり応援店」や「ブルーサークルメニュー（糖尿病対策メニュー）」への登録を目指す。また、ツーリズム事業については、本市で開催される既存のイベントに今回開発したライフキネティック体験メニューなどを取り入れることで、健康づくりに関心のある観光客層の誘客促進を図ってきたい。スパタラソ天草や市内飲食店などでの商品提供ができるよう継続性をもって取り組んでいく。また、アサリ養殖の産業化及びブランド化については、目標を大きく下回る結果の要因となった夏季の干潮時の高温対策を情報収集し、コストパフォーマンスの高い方法を実証する。

推進会議評価

B

事業最終年度のため3年間の取組みを検証し、結果が得られなかったものは止め、継続するものは持続性のある取組みとなるよう工夫して取り組んでいただきたい。観光ブランディングについては「ナナメ上ノ上天草」のロゴを高校生や市民が市外の人に自信をもって紹介できるようになると更なる波及に期待が持てる。ヘルスツーリズムについては、本市は糖尿病患者も多いことから、まずは市民一人ひとりが健康を意識するような取組みを進めていただきたい。

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：シーリゾートトライアングル構想・推進事業
 (平成29年度～令和元年度)
 (平成30年度事業費：24,474千円／交付金12,236千円)

総務企画部 開発プロジェクト推進課

重要業績評価指標 (KPI)

- ◆ **宿泊者数 事業開始前 245,787人**
 【H30】目標 270,965人 → 実績 263,197人※ (97%)
 最終目標 284,465人 (累計38,678人増加)
- ◆ **レンタサイクル利用者数 事業開始前 0件**
 【H30】目標660件 → 実績 16件 (4.4%)
 最終目標 累計 726件
- ◆ **フィッシャリーナ天草への新規係留数 事業開始前 0隻**
 【H30】目標 3隻 → 実績 30隻 (1,000%)
 最終目標 累計8隻

※速報値

事業の概要

- ◆ 観光・リゾートの拠点施設が集積されつつある前島・樋合・天草ビジターセンターにおける三角エリアにおいて、観光客が一带を十分に楽しんでもらうため、体制整備及び周遊プランの造成など観光交流拠点としての魅力向上に資することを目的に策定したシーリゾートトライアングル構想に基づき、人材育成及びモニターツアー、レンタサイクルの実証実験等を実施した。
- ◆ 前島栈橋については、今年10月に前島観光拠点施設がオープンすることを考慮して、老朽化していた栈橋の改修工事を行った。

＜主要事業＞

観光人材育成及び体験型観光ツアー、レンタサイクル実証実験、栈橋整備など

**担当課
評価**

C

商工観光事業者向けセミナーは、要望の多かったインバウンド対応に関するセミナーを実施し、参加事業者からは日常の業務に役立てたいと満足の声を頂いたが、他にも関係団体による類似のセミナーが多いため、商工観光事業者のニーズに合った内容の構築や対象者の選定を行う必要があると感じた。
 レンタサイクルは、昨年の課題を踏まえ、利用が見込める秋に行ったが、十分な周知が図れず、思うように利用者が増えなかったことから、雑誌やCM等のマスメディアを活用した周知方法も検討する必要がある。



改善 (令和元年度以降における取組みなど)

前島地区を観光需要の拡大を図るための重点整備地域として位置づけ、平成26年度から前島総合開発に取り組んでいるが、更なる観光入込客数の増加と観光客が長期滞在して楽しんでもらうために、前島地区を核とした着地型の観光商品の造成や本年10月にオープン予定の前島観光拠点施設における本格的なレンタサイクル運用に向けて、多様なニーズに応えられるよう各種自転車を購入する。

**推進会議
評価**

C

前島観光交流拠点施設においては、レンタサイクルだけでなく、電気自動車やアクティビティも実施するかどうか。民間の方の意見を参考にしたり、観光客のニーズ（カヌーや船を使っでの移動など）を把握していくことがよりよい取組みに繋がるのでは。本事業の目的である前島・樋合・ビジターセンター一帯を楽しんでもらい、周遊させるのが目的であれば、レンタサイクル以外の方法も考えられるのではないかと。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：湯島で生きる“島活”応援事業

(平成29年度～令和元年度)

(平成30年度事業費：9,244千円／交付金4,622千円)

事業の概要

◆島しょという条件不利を逆手に取り、湯島の地域特性を有効活用するための磨き上げとして、県内唯一の“恋する灯台”である湯島灯台を中心に癒し・ホスピタリティをテーマとした環境整備及び誘客プランの作成、移住促進の取組みを展開する。

＜主要事業＞

スローライフ体験ツアー、湯島灯台周辺整備、プロモーション動画作成

重要業績評価指標 (KPI)

- ◆湯島定期船を利用した入込人数 事業開始前 16,284人
【H30】目標 18,084人 → 実績 22,940人 (127%)
最終目標 20,484人 (累計4,200人増加)
- ◆湯島地区の空き家登録件数 事業開始前 0件
【H30】目標 2件 → 実績1件 (50%)
最終目標 累計 6件
- ◆湯島地区の移住者数 事業開始前 8人
【H30】目標2人 → 実績5人 (250%)
最終目標 16人 (累計8人増加)

**担当課
評価**

B

スローライフ体験ツアーにおいてはSNSで影響力のある3名が来島し、湯島の魅力を発信したほか旅雑誌での情報発信を行った。また、熊本市内の飲食店5社の料理人を招聘し、メニュー開発（計14品）と店舗での湯島フェアを行ったところ、期間の来店者数は2,900人と「食」を通じた湯島のPRができ、お客様からも好評であった。

H29から取り組んでいる短編映画「島のシーグラス」が完成し、市内での上映会を開催したほか、映画祭へ出品し“小津安二郎・蓼科高原映画祭”で入賞するなど、作品を通じて湯島を発信することができた。また、新たな取組みのフォトウェディングスポット発信事業は、島内の前撮りスポット10箇所をまとめたパンフレットを作成し、県内のウェディング関係事業所205社に配布したところ、3月には実際にパンフレットを見たカップルが撮影に来たとの情報もあり、県内の前撮りスポットの1つとして引き続き発信していく。

KPIの定期船の入込人数については、本交付金事業だけでなく、メディア等に取り上げられ、湯島の魅力を域外に発信し続けたことから、多くの観光客が訪れ、目標を大きく上回る結果となった。また、湯島への移住希望者も増えており、移住者数も目標値を上回った。島内の空き家登録件数についてはKPIは未達成であるが、登録物件は既に成約済で、引き続き空き家バンク登録を促進するための周知を行っていく。

改善（令和元年度における取組みなど）

H29年から取り組んできた島活事業の成果として、湯島への移住希望者が増えていることから、湯島への移住に興味を持っている方向けの体験プランを構築する。また、昨年度実施した料理人を象にしたメニュー開発及び提供については、湯島の食材を活用したメニューの開発及びレシピ提供を行い、自走できる取組みを目指す。短編映画「島のシーグラス」は、引き続き映画祭への出展と併せ、映画関係者に湯島のプロモーション活動を行い、湯島で役者や映像製作を目指している方を対象に撮影や演技のワークショップを行うなど、発信から来てもらう取組へとシフトしていく。

フォトウェディングについては、撮影に係るアテンド等、島内の受入体制を整えるとともに、県内のウェディング事業者と連携し撮影プランを構築・発信し、持続性をもって取り組んでいく。湯島の空き家への問合せは増えている一方で、空き家登録は進んでいないことから、周知や空き家の掘り起こしに取組んでいく。

**推進会議
評価**

B

これまでの取組みで湯島が盛り上がっていることから、この成功事例が市内全体に広がり、今後、湯島へ観光に来る人が維和島や樋合など、他の地域にも人の流れができるよう、地域の盛り上がり期待。
 令和元年度（平成31年度）で最終年度となることから、島内で持続性のある取組みにしていきたい。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：上天草市「観食住」サイクル事業

(平成29年度～令和元年度)

(平成30年度事業費：23,071千円／交付金11,531千円)

事業の概要

◆ 6次産業を中心に産業の活性化を図ることで「仕事づくり」雇用機会を創出する。「仕事の連携」として食と観光の横断的な事業展開を図り、「仕事をつくる→呼び込む→連携する」のサイクルを継続的ワンストップで実施することで一極集中する大都市から移住者を増加させ、人口減少を抑制し市として持続可能な人口構造を確保する。

<主要事業>

6次産業化支援事業、移住促進事業（産業体験イベント・グルメコンテスト）

経済振興部 産業政策課・観光おもてなし課
総務企画部 企画政策課

重要業績評価指標（KPI）

◆ 1年間の新規取引件数 事業開始前 0件

【H30】目標15件 → 実績60件 (400%)

最終目標 累計45件

◆ 入込客数 事業開始前 1,449,000人

【H30】目標1,509,000人 → 実績1,867,433人 (123%)

最終目標 1,539,000人 (累計90,000人増加)

◆ 移住者数 事業開始前 事業開始前 0人

【H30】目標35人 → 実績50人 (143%)

最終目標 累計105人

◆ 農林水産物ブランド化補助金の採択件数 事業開始前 0件

【H30】目標10件 → 実績6件 (60%)

最終目標 累計30件

担当課
評価

大阪府豊中市千里中央パルで物産と観光PRを兼ねた上天草フェアを開催するとともに商談会を実施した。また、大阪府池田駅内にあるこだわりの食材を取り扱う産直野菜ぷちトマト&ぷちトマトBioにおいて、上天草産品販売コーナーを設置し、年間を通して旬の食材や加工品商品販売した。連携した販売促進策を協議し、過去事業で開発した商品の販路拡大のために商談会に出展するなど、これまで取組んできたブラッシュアップした商品の販路開拓に注力して取組みを行った。また、昨年引き続き、加工品開発研究センターを活用する市内事業者（5社）の加工品開発の支援を行った。

移住促進事業の一つとして、前述の上天草フェアと同時に千里中央パルにて移住イベントを実施した。海運業・農業（花き業）・林業にスポットを当てた動画を放映し、現地の参加者とリアルタイムでやり取りができ、本市で働くことをPRできた。グルメコンテストについては、道の駅さんばーで鹿児島・北九州から5店舗が参加しコンテストを実施。グランプリ受賞者は店舗開設に向けた物件を探すなど本格的に検討されており、引き続き、支援を行っていく。

B

改善（令和元年度以降における取組みなど）

6次産業化支援事業については、市内事業者の商品を取り扱う地域商社機能を持つ物産館の外商力を強化し、支援を充実し事業に取り組む事業者を増やす。また、商品のブランド力を高めるためのPRや商談機会の増加などに取り組み、販路開拓と継続的な取引に繋がるよう支援を行っていく。

産業体験イベントについては、これまで東京・大阪で実施したため、九州圏内において、移住検討者に対し本市の仕事や産業をPRし、実際に本市での仕事や生活を体験してもらうことで、本市への移住促進につなげていく。グルメコンテストでは、コンテスト優秀者が活用できるチャレンジジョブ補助金の要件を緩和し、移住お試し店舗運営を賃貸物件でも行うことができるようにして、本市への移住促進につなげていく。

推進会議
評価

事業開始から2年目でこのような数値的成果が出ており、6次産業も引き続き取組みを進めていただきたい。
産業体験の事業については、総合戦略における5年後を見据え、観光業や交通事業者、接客業などにも注目してはどうか。

B

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

4

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
**事業名：天草四郎と潜伏キリシタン文化を活用した
 新たな観光素材づくり事業**

(平成30年度～令和2年度)
 (平成30年度事業費：5,161千円／交付金2,580千円)

事業の概要

- ◆天草四郎ミュージアムを「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の概要を学ぶためのハブ施設」と位置付け、施設の魅力アップ及び周辺のキリシタン関連施設と連動させるとともに、旅行者の周遊性、利便性を高める取組みを行うことで、本市のキリシタン文化をフックとした入込客数の獲得につなげる。
- ◆平成32年度には、天草四郎生誕400年を迎えるタイミングでもあることから、消費者にさらなるインパクトを与えるとともに、天草四郎と関連施設のつながりやストーリー性を発信することで、旅行者の来訪意欲の向上と話題性の維持を図り、安定した天草エリアへの集客力の向上と長崎地方への周遊ルートへの提案につなげる。

<主要事業>

資料調査分析と展示業務、語り部による解説講演、定期公演実証実験、情報発信

経済振興部 観光おもてなし課

重要業績評価指標 (KPI)

- ◆天草四郎ミュージアムの入館者数 事業開始前26,044人
 【H30】目標 40,000人 → 実績 32,789人 (82%)
 最終目標 48,400人 (累計22,356人増加)
- ◆市内観光消費額 事業開始前 11,602,171千円 (104%)
 【H30】目標12,762,388千円→ 実績13,284,440千円※
 最終目標 13,018,912千円 (累計1,416,741千円増加)
- ◆市内宿泊者数 事業開始前 297,243人
 【H30】目標 312,105人 → 実績265,159人※ (85%)
 最終目標 318,378人 (累計21,135人増加)
- ◆天草島内の関連施設入館者数 事業開始前 77,892人
 【H30】目標 85,681人 → 実績212,743人 (205%)
 最終目標 103,674人 (累計25,782人)

※速報値

**担当課
 評価**

B

平成30年7月に天草崎津が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産に登録され、観光入込客数が増加する中、天草地域のキリシタン文化に触れる玄関口としての認知度向上を図ることができたことから、目標には達してはいないものの天草四郎ミュージアムの入館者数の増加につながった。また、世界遺産登録の初年度ということもあり、天草島内の関連施設入館者数は大幅に増加した。



改善 (令和元年度以降における取組みなど)

天草地域のキリシタン関連施設とのさらなる連携を図るため、施設館長による横断的な連携の強化や情報の共有を図りながら広域的な取組による魅力向上を図る。また、映像コンテンツのリニューアルによる魅力向上を図るとともに、天草四郎や島原・天草一揆をテーマとした創作舞踊や潜伏キリシタンに関する定期催事の継続開催による認知度の向上を図る。

**推進会議
 評価**

B

平成30年4月に展示品を充実させ「天草四郎ミュージアム」へとリニューアルされ、入館者数も増えているが、地元の人が地元を知る取組みは大切である。地元の方に愛されるミュージアムであってほしい。
 今後、観光は広域的な取組みは必須であり、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が世界文化遺産に登録され、上天草市への直接的な成果が出るにはもう少し時間がかかると思うが、地元発信型や市民一人ひとりが観光の担い手というシビックプライドのような意識を高めていっていただきたい。

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。 B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。 C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。 5
 D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。 E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。